

バーチャルクラス TerakoyaS のご紹介

ー 協調学習を目指した新しい eLearning システム ー

株式会社アンビリカス 市場開発部 多田 勉

tada@umbili.jp

キーワード：eLearning, 協調学習, ブレンド学習, インターネット, 課題学習

1. はじめに

今回ご紹介しますバーチャルクラス TerakoyaS は、バーチャルなコミュニケーションをベースに協調型の学習方法を目指した新しいタイプのインターネットを利用した eLearning システムです。

今までの eLearning システムは、自己学習をベースにした eLearning システムが主流でした。しかし、現実の学習の方法は、自己学習の方式だけではなく、1つの課題や問題に対して学ぶメンバー同士が意見を言ったり、同意したりしながら学んでゆく方法も考えられます。一般的に協調学習（課題学習）といわれる学習方式です。弊社は、大学との共同研究によりこのような協調学習（課題学習）を目指したシステムの開発を行いました。

2. システムの特徴

バーチャルクラス TerakoyaS は、協調学習を支援する為に、今までの自己学習タイプの eLearning システムにはない以下のようなユニークな機能を数多く取り入れています。

- ・先生と生徒間だけでなく生徒同士のコミュニケーションを円滑に行わせる機能
- ・ユニットと言う学習単位の導入により学習進捗を同期させる機能（学習者が同じユニットを学習）
- ・教室イメージ（図1）をポータルに採用する事により学習者の孤独感の開放
- ・記名方式（匿名方式の排除）による学習及びコミュニケーション（掲示板、チャット、メッセージ）
- ・学習中の学習者をリアルタイムに表示する機能
- ・学習履歴（図2）の表示と LMS (Learning Management System) 機能
- ・先生自身が簡単に作成できる教材、テスト及びアンケート等の作成機能
- ・様々な教材（ファイルコンテンツや文字コンテンツ、マルチメディアコンテンツ等）の作成機能と表示機能
- ・シンプルで使いやすい管理者機能（コース登録、ユーザー登録など）

このような機能を利用することにより、先生と学習者、及び学習者同士のコミュニケーションをベースにした協調学習をバーチャルクラス TerakoyaS を利用して簡単に行うことが可能になっています。

また、学習単位としてユニットと言う概念を取り入れることにより、学習進捗の同期を取る事が可能になりました（1週間、または10日、1カ月単位で学習者は同じ内容の学習を行います）。その為、今までの自己学習方式の eLearning システムでは困難であった、実教室とブレンドした学習方式（ブレンド学習）も非常に簡単に実現することが出来ます。

バーチャルクラス TerakoyaS は、全ての学習者が記名方式（学習者、先生は全て名前を公開します）で学習することを基本にしています。その為、匿名方式では心配される学習者同士の誹謗・中傷によるトラブルの発生を防ぐ事が可能になります。また、討論を行う場合でも責任も持った発言を行うものと考えられます。



図1. 教室イメージ

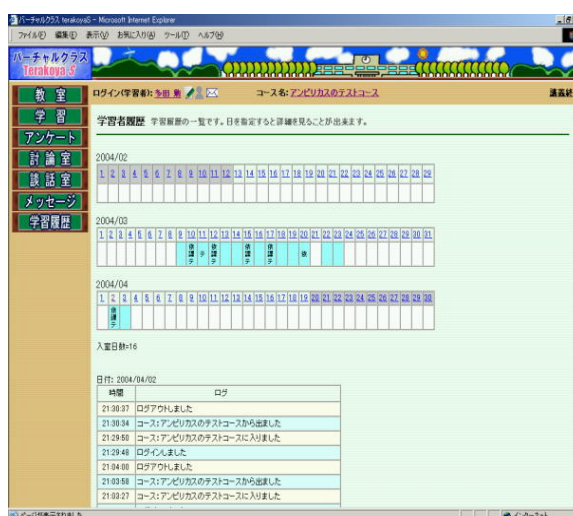


図2. 学習履歴の表示

3. システムの構成

バーチャルクラス TerakoyaS は、「先生」、「学習者」、「管理者」の3つの役割を持ったユーザーで構成されます。それぞれの役割に応じて以下のようなメニューが用意されています。

「学習者」－コース情報／学習（教材）／討論室／談話室／メッセージ／評価依頼／アンケート／学習履歴

「先生」－教材作成（コンテンツ、課題、テスト）／ユニット評価／ユニット管理／お知らせ／討論議題作成（グループ討論、課題討論）／学習者管理（総合評価）／その他学習者と同じ

「管理者」－ユーザー登録／コース管理／受講管理／クラス管理／運営

4. バーチャルクラス TerakoyaS の利用例

バーチャルクラス TerakoyaS を利用して学習を行うには、全ての学習をインターネット経由で行う方法と実教室で行う授業とを組み合わせる方法（ブレンド学習）の2つの方法が考えられます。

ここでは、実授業と組み合わせた方法、いわゆるブレンド学習の例について紹介いたします。ブレンド学習とは、現状行われているような、全ての学習者を実教室に集めて学ぶ方式ではなく、実教室の学習にインターネットを利用した eLearning 環境（この場合は、バーチャルクラス TerakoyaS）を補完的に取り入れて学習を行う方法です。

3ヶ月で1単位の講義（12講義）の場合を1つの例として考えてみます。下図（図3）のように実教室の学習と eLearning を組み合わせて講義を行う事が可能になります。このような学習形態を取ることで、学習者はいつも同じ時間、同じ場所に集まる必要がなくなり、学習の自由度が非常に増す事になります。

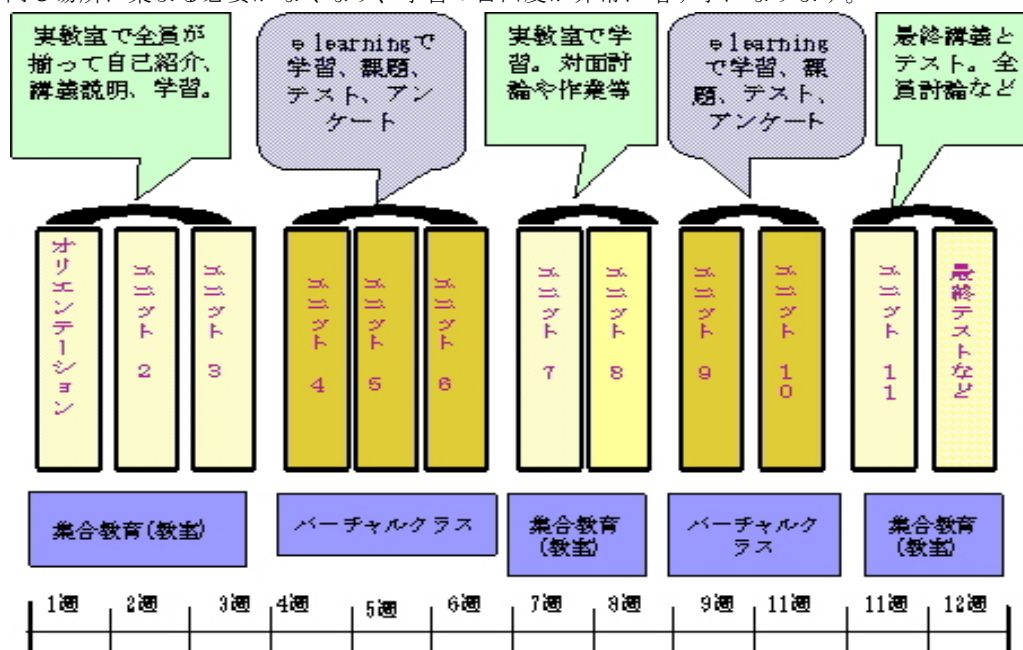


図3. ブレンドラーニングの例

また別の例では、全ての講義を実教室で行うことを前提にバーチャルクラス TerakoyaS を学習者の支援ツールとして利用することも考えられます。

実教室で講義を行った後、提出すべき課題やテストをバーチャルクラス TerakoyaS を利用してインターネット経由で提出させます。先生は、次回の講義までにバーチャルクラス TerakoyaS 上で課題やテストの評価を行います。実教室での学習では時間の制約があり議論できなかった内容についてバーチャルクラス TerakoyaS を利用して議論を継続させることも可能です。また、実教室で行った講義のアンケートをバーチャルクラス TerakoyaS を利用して収集する事も考えられます。

このようにバーチャルクラス TerakoyaS を利用した学習を行うことにより、これからの社会や企業で求められるバーチャルなコミュニケーション能力の向上にも役立つものと考えています。

5. 最後に

バーチャルクラス TerakoyaS を自由に利用していただく環境をご用意しています。実際の講義で利用してみたい、テスト利用してみたい等ご要望等がありましたらご連絡下さい。

また、弊社 HP (<http://www.umbili.jp/>) からデモサーバーを利用できる環境をご用意しています。学習者としてバーチャルクラス TerakoyaS にログインする事が出来ます。（デモサーバーでは、先生機能はご利用できません。）ご興味のある方は是非一度アクセス下さい。その他、お問い合わせは sales@umbili.jp まで。